

総務企画防災常任委員会行政視察報告書

小林 貴浩

○愛知県半田市

「マイレポはんだの概要と災害時の活用について」

【所 見】

スマートフォンの無料アプリを利用して、道路の陥没や施設の破損など市民に身近な問題を手軽に解決し、24時間365日市の課題が投稿できる仕組みである。災害時の時は災害版に切り替え、災害情報収集し道路の冠水状況や倒木などの写真と位置情報を共有し、迅速かつ的確な対応を支援する仕組みを作成し公開している。

幅広い市民からの投稿に対し、各課担当部署が対応し平成26年から運用開始以降2019年4月1日時点で1070件の対応となった。道路、交通安全、水路、防犯灯、ゴミ等市民生活に直結する問題が上位を占めた。

「マイレポはんだ」が目指すものは市民ニーズに素早く対応し住みよいまちをつくり住民満足度の向上を図る。ICTを活用することで、より便利で市民も行政にも負担の少ない制度を目指し、課題と問題を市民と行政が共有し、ともに解決に向かう基盤となる制度とし、行政の見える化（オープンガバメント）を促進するということである。

課題としては関係機関との連携、市民参加者が少ない、解決の市民参画など様々な課題はあるものの情報化社会の中で人口減少、少子高齢化等本市と同様の課題を持つ「マイレポはんだ」の事業は本市の行政サービスの先進事例だけではなく、昨今異常気象の影響による自然災害にも活用できる素晴らしい事例であった。以前一般質問で提案したクライシスマッピングより安価で参入しやすい様々な可能性を秘めた制度になると確信する事例であった。

○愛知県高浜市

「市役所本庁舎整備事業について」

【所 見】

以前、議員研修で東洋大学公民連携講座の講師を務めた高浜市長が20年間リース方式で市役所を建て替え事務作業する場として、必要最

低限の設備で最新の庁舎の建て替え事業についての講義を受けたのが今から5年前のことだ。平成29年4月より新庁舎が開庁しその後2期工事として会議棟、駐車場、外構工事を行い平成30年4月より供用開始となった。

この事業の素晴らしい所は、市長のリーダーシップにより公共施設の在り方検討事業ということで限られた財源・資産をより有効に活用するため、地域ごとの人口構成など、地域の特性を踏まえた上で、既存の公共施設の機能更新等に係る将来的な財政負担の平準化を図ることにより、長期的な視点に立った財政計画を基づいた財政運営を行い、持続可能な自立した基礎自治体をめざすことを目的に今後の公共施設の在り方について検討し、公共施設あり方計画を策定し、高浜市公共施設マネジメント基本条例といった仕組みを創り将来予想を想定し計画的・必要最低限で最新の設備で実施できた所である。同時に市職員のこれまでの常識を打ち破り、公民連携の第一人者である東洋大学の根本教授を招いて職員研修を開催し専門家・学識経験者を交え高浜市公共施設マネジメント白書を作成し意識改革にも積極的に取り組んでいる。

総工費約33億円を20年間大手リース会社とリース契約を結び、庁舎を建設する方法で維持管理運営費も含めリース料約1億6千万円を支払う内容となっている。事務を行う執務室のスペースのみを確保し必要最低下の設備である。豪華装備はなく市長、副市長、正副議長室のスペースも事務作業できる最小下の広さ、何より驚いた点は、議場は普通の会議室。議会の無いときは多目的ホールとして市民に貸し館している所である。今後、本市も4大施設をはじめ多くの公共建物の更新期が来ている中で今回の事例は大変参考になった事例であり、足利市も先駆的に学校給食調理場や太陽光発電事業といった事業を同様の方式で建てた経緯がある。その先駆的な実績を参考に、今後の公共施設の建て替えに導入すべきと改めて感じた視察であった。